

海外研修報告

虎の門病院 辻 良憲

参加した目的とその成果

今回の研修に私が参加させていただいた目的は、3D ラボセンターの運営の仕方と高磁場 MRI (7T) の将来の実現化です。日本では、検査終了後に担当技師が作成するというのが一般的であり、夜も遅くなることもあり、クオリティが低下していくこともあります。また作成者独自の色が出てしまうこともあります。スタンフォードでは 3D ラボセンターで専門の技師が作成しているという事前情報がありましたが、実際の運用方法はどのようになっているか、結果は予想以上でした。3D ラボセンターと CT 室、MRI 室等は場所が離れてはいましたが、検査時の情報などは互いに共有し合い、作成する際にミスはなく、また、医師の指示のもと疾患一つ一つにチェックリストの様なもので作成する 3D 画像のプロトコールが決められており、それにより技師は画像を作成します。また、作成の手順や回転させる画像の角度等も決められており、どの技師が携わっても同じ結果となるようにトレーニングされていました。

次に、高磁場 MRI について報告させていただきます。7T の MRI はまだ実験段階ではありますが、今までの 1.5T の MRI の常識を覆すような Image を得ることができるようになってきています。しかし、マグネットの重量等まだまだ解決しなければいけない事も残っていると感じました。

日本と米国の放射線技師制度の違いをどの様に感じたか

今回の研修で私がもっとも感じたことは免許制度の違いです。アメリカでは放射線技師の免許の他に、MRI 等の専門ライセンスがあることです。これは日本での認定技師とは全く異なるものでした。日本では認定技師の有無に関わらず検査を行えますし、また、その他の仕事も行います。しかし、米国ではライセンスによって、MRI に従事でき、給料にも反映されてきます。また、全てのモダリティで専門性を高めており、そのモダリティのみで仕事をしていました。

今回の研修で得たことを今後どのように生かしたいか

米国での各モダリティの専門性の中にマニュアル等がしっかりしているという事です。当院でもルーチンワークとしてのマニュアルはありますが、まだまだスタンフォードのようなクオリティには程遠い状態です。予期せぬ事態等もあるとは思いますが、少しでもそれに近づけるように努力していきたいと思えます。

最後になりますが、日本から参加した方々と夜にそれぞれの研究を発表しあいましたが、これも大変刺激になりました。自分と同じ分野で活躍されている方々の発表はレベルの違いに圧倒されると同時に集計や解析の仕方を学び、また違った分野の方々の発表は研究の仕方やプレゼンテーションの仕方を学び、とても勉強になりました。今回の研修では米国のレベルの高さはもちろんですが、日本もそれに負けていないと感じました。今後はその日本の参加者の方々のモチベーションを見習い、自分の研究と仕事に生かしていきたいと思えます。

お気に入りの写真：
レセプションパーティーでの地元の放射線技師との写真です。一番左が著書。

